平成 29 年度　第 I 期収蔵品展

宮本三郎の描く身体

THE BODY in Saburo Miyamoto's Art

2017.4.1 sat → 7.23 sun

□展覧会名　宮本三郎の描く身体　THE BODY in Saburo MIyamoto's Art
□会　　期　2017(平成29)年4月1日(土)～7月23日(日)
□休 館 日　毎週月曜日　ただし、7月17日(月・祝)は開館、7月18日(火)は休館
□開館時間　10:00～18:00　入館は17:30まで
□観 覧 料　一般200円(160円)、大高生150円(120円)、65歳以上、中小生100円(80円)
障がい者100円(80円)　ただし、小中高大学生の障がい者は無料
※介助者(当該障がい者1名につき1名)は無料
※( )内は20名以上の団体料金
※小中学生は土日、祝休日、夏休み期間は無料

《裸婦A》1962年

■お問合せ
世田谷美術館分館
宮本三郎記念美術館

担当 石居美也(広報・事務) / 加藤絢(学芸員)
TEL 03-5483-3836　　FAX 03-3722-5181
Email miyamoto.annex@samuseum.gr.jp
〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13

□展覧会概要

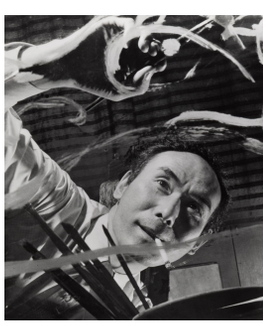
人間の身体をいかに表すか――美術の表現において、もっとも普遍的かつ根本的といえるこのテーマは、ことに西洋の美術が歩んだ歴史をひもとくとき、それぞれの時代を特色づける要となります。

生涯を通じて人物を主題の中心に据えた洋画家・宮本三郎（1905-1974）は、二度の滞欧期を経て、西洋の古典および同時代の美術を熱心に学びました。その実践として、生来の素描力を土台としつつ、さまざまな表現手法を駆使し、多様な画風を展開していきます。一貫して描き続けた女性像もまた、艶かしさを湛えたふくよかな姿態にはじまり、研鑽を重ねてきた写実表現を離れて抽象的な表現による創造を試みたもの、鍛え上げられた肉体にその職業的個性を表出させたかのようなバレリーナの像など、次々とめまぐるしいまでに、その表情を変えていきます。

本展は、宮本三郎が描いた「身体」に注目し、初期から晩年までの油彩・素描作品を通して、その豊かで生気に溢れた表現の変遷を辿るものです。モデルを前にデッサンを重ね、幾多の試行を重ねた宮本三郎の、真摯に対象と向き合うことで生み出された魅力あふれる作品の数々をお楽しみください。

□宮本三郎について

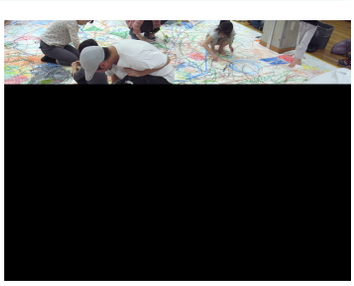
宮本三郎(みやもと･さぶろう)は、1905年5月23日、現在の石川県小松市松崎町に生まれ、1935年7月より世田谷区奥沢にアトリエを構えた、昭和を代表する世田谷区ゆかりの洋画家です。
川端画学校で富永勝重、藤島武二、また個人的には安井曾太郎に指導を受け、戦前は二科展を中心に発表を行いながら、雑誌の挿絵や表紙絵の制作でも活躍。戦時中は従軍画家として藤田嗣治、小磯良平らとともにマレー半島、タイ、シンガポールなどに渡り《山下、パーシバル両司令官会見図》(1942年)をはじめ、数々の作戦記録画を制作しました。
戦後は、熊谷守一、田村孝之介らと第二紀会を設立。生来の素描力を土台に、さまざまに画風を変えながらも、人物を主たるテーマとして制作、晩年は花と裸婦を主題にした豪華絢爛な絵画世界を構築します。1974年10月13日、腸閉塞による心臓衰弱のため、69歳で他界しました。



宮本三郎記念美術館は、宮本三郎が長きにわたり制作の拠点とした世田谷区奥沢の地に、2004年に開館した美術館です。展覧会だけではなく創作活動や各種講座を企画、開催しています。

□講座室活動

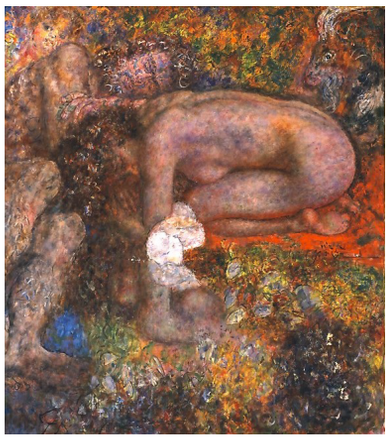
当館では、年間を通して、講演会やワークショップ、コンサートなどを開催しています。開催が決まりましたら順次ホームページなどでお知らせして参ります。



[写真 ワークショップ「Play Paynt」(講師：松岡亮)]

□広報用作品画像

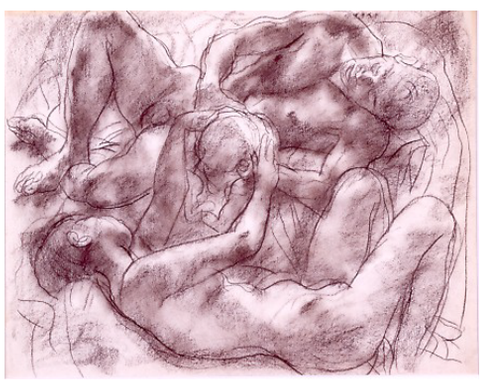
1、《裸婦A》1962年



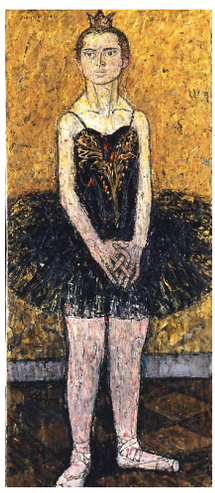
2、《生》1974年

3、《裸婦》1962年

4、《青い敷物》1935年



5、《家族像》1956年



6、《黒鳥》1963年

各画像は広報用として提供しております。ご希望の際は広報担当までお問合せください